

題名 : 一人暮らしの高齢者から助けよう

## 出演者

諏訪町町内会会長 岩本 健太郎  
諏訪町町内会副会長 吉川 浩嗣  
諏訪町町内会副会長 田中 喜代次  
諏訪町自主防災会役員 川上 利英  
諏訪町自主防災会役員 上原 章  
諏訪町自主防災会役員 平賀 和人  
諏訪町自主防災会役員 五木田 喜男  
諏訪町自主防災会役員 小野瀬 君江

一人暮らし高齢者住人

(仮称) 原田、仲林、人見、大久保、中塚

## ナレーション プロローグ

(1)

諏訪町は、防災活動に熱心に取り組んでいる町会である。

今年、町内全世帯参加型の自主防災会を立ち上げた。消火隊や避難誘導隊など五つの隊を組織化し、班毎の役割分担も決めた。

震度6以上の地震が発生した場合、行政や町会の指示がなくても、住民は自主的に防災活動を開始することを約束事とした。まずは家族の安全確保、次に近所同士の助け合い、それから町内全体の防災活動という順序で行動を行うはずである。

また、避難が必要となるような最悪の事態を想定して、「地区避難所」の名称や位置も確認しあった。こうした一連の町会の防災活動に関する事項を簡潔にまとめた冊子「諏訪町防災便利帳」を全世帯に配布し、防災活動の役割や情報の周知を図った。

さらに、各世帯の家族構成や災害時の要援護者は誰なのか、停電時に生活用水として使える「手動式の井戸」はどの自宅にあるのか等々、震災に備え必要な情報を得るために、町内全世帯を対象にアンケートを行った。

このアンケートによって確認することができた、一人暮らし高齢者などの「災害時要援護者」については、自主防災会の役員が中心となった数班のグループができるだけ早い時間に安否確認に向かう仕組みも作った。

それから、震災用の資機材も揃えることができた。簡易トイレ、毛布、救急箱、レトルト食品、それから飲料水などを入れたコンテナ式の防災倉庫を、町内中心部の諏訪神社の境内に設置した。

地震災害に備えた「計画と備え」はできあがったはずだった。

ナレーション  
プロローグ

(2)

平成二十四年十二月十四日 午後十一時十一分 気温二度  
地震発生

フィリピン海プレートと北米プレートの境界のズレによる地震である。震源地は茨城県南部、マグニチュード7・3だそうだ。我々が住む諏訪町の位置する茨城県西南部の震度は6強と発表されている。

午前零時頃、家族や近所の安全確認に一区切りつけた自主防災会役員が、町会事務所となっている真つ暗な「諏訪会館」に集まり始めた。

岩本

大きな地震だったね、立っていられなかったよ。家の中は、食器や家具が倒れてきて、グチャグチャになってしまった。たまたま、家族にケガがなかったのが幸いでした。二階に寝ていた父親をおんぶして下ろしたよ。高齢で一人では動けないから、心配だったけど、なんとか無事でした。

田中副会長のお宅はどうでしたか。

田中

大変でした。商売用具を入れてある離れの古い土蔵は、見事に倒れました。これから後片付けが気がかりです。妻も無事です。近所では大きな被害がなかったようなので、ここに来ることができました。

この地震だと、町会の人達の被害が心配ですね。

ナレーション

【そんな話をしている間に、9名の自主防災会役員が、諏訪会館に集まってきた。】

岩本

防災の行動計画だと、役員は発災後一時間以内に「諏訪会館」に集合ということになっていますが、皆さん、家や近所の対処で大変なんでしょうね。

吉川

なにしろ停電で町内全体が真つ暗だからなあ。会長、みんなが「この場所」に集まれるように、まず灯かりを点けましょうよ。

川上

冬の星座がこんなにきれいだとは思いませんでした。あ、こんなこと言っている場合じゃないですね、失礼しました。

防災倉庫に、非常用発電機と照明装置がありますから、すぐに持ってきます。

岩本

今年の夏に実施したアンケート、「町内の世帯情報」と「災害時の要援護者リスト」を、自宅から持って来ましたよ。

吉川

会長、この集まった9人で何ができるか、何をしなければならぬか、考えましょう。

田中

トリアージですよ。

吉川

田中君、トリアージって何ですか。

田中 正確な例えじゃないけど、簡単に言うと、やらなきゃならない事に優先順位をつけることですよ。

吉川 優先順位ね。

岩本 この状況で、この集まった人数で何を最優先にするかですね。

まずは、災害時の要援護者を見廻ることにしましょう。その中でも特に、一人暮らしの高齢者宅を見に行きましょう。一人暮らしの人達は心細いはずですが、頼れる人が身近にいない家を確認することを、最優先にします。

田中 この要援護者のリストをみると、全体数は三十八人ですが、その内、一人暮らし宅は十四軒です。二人ずつ四班体制を作って、早速確認に行きましょう。

会長と小野瀬さんは、ここに残って下さい。後から集まってくる人もいるでしょうし、我々の連絡をまとめる役をお願いします。

岩本 わかりました。一刻を争います。手分けして、すぐに出発して下さい。それから、防災倉庫から持ってきたトランシーバーと携帯用のライトがありますから、これを持って行って下さい。

要援護者の状況や町内の被害状況、何でも構いません。小まめに情報を入れて下さい。

ナレーション 【それぞれの班に別れ、町内に散って行った。】

吉川 もしもし、岩本会長、聞こえますか。吉川です、応答願います。

岩本 はい、岩本です。吉川さん、聞こえますよ。

吉川 今、諏訪神社横の原田さん宅の前に到着しました。原田さんは、毛布に包まれて、家の前に立ちすくんでいます。不安そうです。ケガは無いようですが、家中には居られない状況のようです。

岩本 了解しました。原田さん宅と諏訪会館は遠くありません。諏訪会館に避難するように勧めて下さい。毛布も準備しておきますから。

それから、諏訪神社の周りの様子はどうですか。

吉川 吉川です。暗くてとても不用心なので、我々が原田さんを諏訪会館まで連れて行きます。そのあと、仲林さん宅に向かおうと思っています。

それから、このあたりの様子ですが、倒れているような建物は無さそうです。火災も発生していません。

岩本

吉川さん、聞こえますか。原田さんのこと、よろしくお願いします。それから、付近の状況も了解しました。

次のお宅は仲林さんですね。申告書によると、普段は一階東側のタタミの部屋で生活していますから、参考にして下さい。

・・・・・・・・

ナレーション

【場面が変わり、「田中と五木田」班の安否確認状況から】

・・・・・・・・

田中

会長、聞こえますか、田中です。

我々は、常総線の線路の北側、人見さん宅に向かっています。申告書によると、高齢で足が不自由だということですが・・・。

会長、困りました。近くに来ましたが、家が何処なのか、わかりません。こんなことになるんだったら、事前の訓練で、要援護者のお宅を確認しておくべきだったな。

岩本

田中さん、岩本です。同行している五木田さんは、分かりせんか。

五木田

岩本会長、五木田です。僕もはつきりとは分かりません。一度だけ来たことがあったんですが、どうにもこうにも暗くて・・・。

岩本

五木田さん、岩本です。たしかブロック塀のお宅だったような気がするな。少し、探してみして下さい。

五木田

会長了解、探してみます。

・・・・・・・・

五木田

お、表札があつたぞ、この家だな。だいぶ傾いていて危ないな。暗いし、我々が、家の中に入れる状況ではないな。

「人見さん、大丈夫ですかー」・・・応答がない、こりやまずいな。大至急、消防署に連絡を入れなきゃだめだな、救助が必要だよ。

ナレーション

【大きめのライトを肩からぶら下げている大柄の男の姿が、近づいてきた。】

田中

五木田さん、向こうから来るのは床屋の上原さんのようですね。近所の見廻りをしているのかな。上原さん、こんばんは。

上原

あら、田中さん五木田さん、こんばんは。大変なことになってしまったね。人見さんの様子を見に来てくれたんだ。

人見さんは無事だよ。地震のあと、私がすぐに来て連れ出したよ。今は、私の家で休んでいるよ、安心しなさい。

ほんとうは、私も諏訪会館に集まるのは知っているんだけど、どうも足の悪い人見のじいさんや近所が気になって・・・。朝になったら行きますから。

田中

良かった、上原さん、ありがとうございました。早速、会長のほうに連絡します。



川上

会長、聞こえますかー。会長、川上です。  
・・・・・・・・・・・・・・・・  
ダメだ、連絡がとれない。しょうがない、戻ってこの状況を報告しよう。

ナレーション

【無機質で小刻みなエンジン音を発する電源機につながれた照明装置から、諏訪会館内をぼんやりと照らす光が放たれていた。いつしか、不安を隠し切れない住民たちが、パジャマ姿のまま、集まり始めていた。】

ナレーション

【午前六時十分、東の空が白んできた。救急車や消防車のサイレンの音が鳴り止まない。諏訪町の西に位置する別の町会の方からは、幾筋かの黒煙が立ち上っていた。】

小野瀬

会長、夜通しでお疲れでしょう。熱いお茶が入りましたから、どうぞ。この諏訪会館はプロパンガスなので、お湯が沸かせました。  
灯かりと温かい飲み物で、こんなにもほっとできるものなんです。

岩本

小野瀬さん、ありがとうございます。  
ところで、たしか行政の試算によると、震度6強の地震の場合、諏訪町の死者数は8人という数字だったね。一人たりとも不幸な事態になる住民は、あってほしくないものだな。

今日一日が山場だな……。朝一番から、一人暮らし以外の要援護者も確認しなければならぬ。

町会の自主防災会を頼りにしている住民は裏切れないよ。みんなに協力してもらって、諏訪町のために頑張らしましょう。

ナレーション

【そして、長い一日が始まった。】